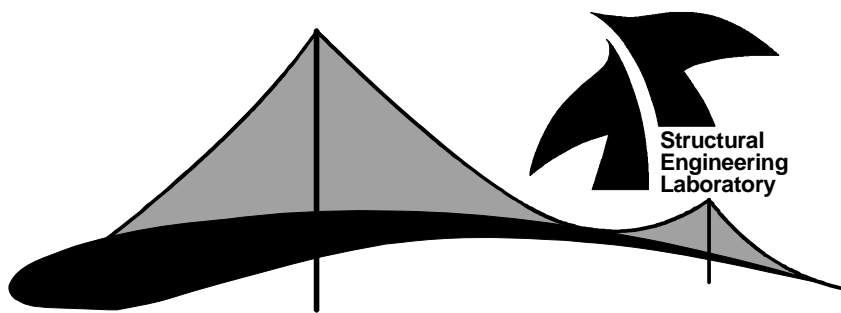


構造研究室 10 年余の歩み (1992.1 - 2002.6)



平成 14 年 6 月

東京都立大学大学院工学研究科
土木工学専攻土木構造学講座

目 次

1. はじめに	1
2. 教育活動	3
1) 講義, 演習, 実験, 製図, ゼミ担当科目	3
2) 学内担当委員会および学科・専攻担当役職	7
3) 構造研究室・橋梁研究室合同ゼミ(全体ゼミ)	8
4) 構造研究室・橋梁研究室共有設備・備品	10
3. 研究指導	11
1) 博士論文	11
2) 修士論文	12
3) 学士論文(特別研究-卒業論文)	14
4) 土木学会全国大会年次学術講演会・口頭発表	15
4. 研究成果	19
1) 学術論文(審査有)	19
2) 国際会議論文	22
3) 学術論文(審査無, 解説・論説を含む)	24
4) 外部研究費導入状況	26
5. 社会貢献	27
1) 著書	27
2) 講演, 講習会, 都民カレッジ	28
3) 審議会, 委員会活動	30
4) 委員会等報告書	32
6. 就職・同窓会活動	34
1) 構造研究室・橋梁研究室進学・就職状況	34
2) 東京都立大学 土木構造・橋梁研究会	36
3) 東京都立大学 STiff21	38

1. はじめに

本書は、筆者（前田研一）が平成4年（1992）1月に東京都立大学工学部土木工学科の土木構造学講座助教授として着任後、平成6年4月からは中村一史助手も加わって活動してきた、構造研究室における十年余の歩みの記録を取りまとめたものである。重責を担い、全力をあげて取り組んできたつもりではあるが、次の十年の活動をより活発でより充実したものとするべく、ご高覧のうえ、忌憚のないご意見、ご叱責をいただくことを願う次第である。

東京都立大学では、昭和24年（1949）4月の創立以来、講座制がとられる一方、昭和40年代後半の大学紛争を契機に、講座を構成する各研究室に独自性が認められるという進取の精神が込められた運営がなされている。土木構造学講座は、本学創立とともに設けられ、そのような中であって、50数年の歴史を積み重ねてきた。筆者の着任は、山崎 淳元助教授（現日本大学教授）の異動に伴うものであったが、伊藤文人元教授の急逝により、成田信之助教授が就任される前の約1年間（平成元年度）、大学院の非常勤講師を務めてもいた。着任した当時、土木構造学講座は構造研究室と橋梁研究室とで構成され、成田信之助教授の下、長嶋文雄助手、野上邦栄助手らが所属しており、両研究室で連携しながら、教育・研究・社会貢献などに従事することとなった。

その後、平成6年4月には、長嶋文雄助手が助教授として防災学講座（現地盤工学講座）に異動されると同時に、上述のように中村一史助手が着任し、平成10年4月には、同年3月に成田信之助教授が退職（現土木研究センター理事長）されたのを受けて、筆者および野上邦栄助手が現職（教授および助教授）に就いている。なお、前年の平成9年4月の大学院重点化に伴って、平成10年4月からは大講座制がとられ、大学院工学研究科土木工学専攻所属が本務で、工学部土木工学科所属は兼務とみなされるようになるとともに、旧土木構造学講座と旧土木材料学講座が一体となって現土木構造学講座を構成することとなった。表に、平成14年6月現在の土木工学専攻土木構造学講座の構成を示すが、構造研究室と橋梁研究室との連携は今も変わらず続けられている。

●土木構造学講座

研究室	職	氏名 学位 (年齢)	教育研究分野	研究テーマ
土木構造研究室	構造研究室	前田研一 工学博士 (53)	鋼構造学, 橋梁・構造工学, 計算力学	吊形式橋梁, 新素材 (FRP など), 長大・超長大橋, モニタリング, ユニバーサル D, 近代土木遺産
		中村一史 修士 (工学) (33)	構造工学, 橋梁工学	吊形式橋梁, 長大・超長大橋, 耐震・免震設計法
	橋梁研究室	野上邦栄 工学博士	構造工学, 橋梁工学	吊形式橋梁の開発, 合成構造設計法, 既設構造物の耐久性
		山沢哲也 修士 (工学)	鋼構造・複合構造学	連続合成桁橋の合理化設計, 腐食鋼橋の残存耐力評価

土木材料研究室	教授	國府勝郎 工学博士	コンクリート工学 鉄筋コンクリート工学 建設材料学	コンクリートの物理化学的特性と 施工法, 再生骨材, スラグ, 軽量骨材の利用技術
	助教授	宇治公隆 博士 (工学)	コンクリート工学 コンクリート構造学	コンクリート用新材料, 鉄筋コンクリート構造の耐久性, 補修・補強
	助手	小坂俊吉 工学博士	都市防災学	地域防災計画地震被害予測
	助手	上野 敦 学士 (工学)	コンクリート工学	コンクリートにおける材料科学

平成17年4月には、法・経・人文・都市科学・理・工の6研究科〔大学院〕からなる現都立大学に、短大（廃止）、保健医療大学、および、技術科学大学を加えて都立の4大学を統合し、新総合大学を発足させることが計画されている。また、夜間課程〔B類〕の廃止も既に決定されている。このように一大変革期を迎えた本学にあって、土木工学専攻、土木構造学講座、そして構造研究室としても大きな変革を迫られていることはいままでもなく、外部評価、JABEE対応なども加わって、次の10年はより多難なものになると思われる。これまでの皆様のご支援、ご指導に対して、衷心より御礼を申し上げるとともに、今後も、より一層のご支援、ご指導をお願い致したい。

2. 教育活動

1) 講義, 演習, 実験, 製図, ゼミ担当科目

A. 教養科目

都市の技術

担当者	安藤, 岩楯, 片倉, 小泉, 國府, 西村, 前田, 山川
開講期, 曜日, 時限, 単位	前期 月曜日 4限 2単位 前期 月曜日 6限 2単位
授業概要	<p>都市の直面する諸問題を解決するために, いかなる技術手段を持って対応しているのか, さらに今後求められている人と環境にやさしい都市をめざして, どのような新しい技術が必要とされるのか, について各分野ごとに専門的知見をもつ複数の教員が概括的に講義する. また, 講義ではスライドやビデオを用いることもある. さし当たり想定する分野は,</p> <p style="text-align: center;">①都市計画と環境 ⑤都市の構造物 ②都市の交通 ⑥循環型都市の建設 ③都市の河川 ⑦都市の防災 ④都市の上下水道</p> <p>などである. しかし, これらは固定したものではなく, 講義の内容も都市の将来を見すえた, 分野相互に関連した聴講生の想像力にうったえるような, 柔軟でわかりやすい話となるように考えている.</p>
テキスト	東京都立大学土木工学教室編「都市の技術」技報堂出版
参考書, 教材	講義の中で紹介する.
関連科目	特に前提となる科目はない.
履修上の注意	授業で出欠をとる. 各教官ごとにレポートを提出させる.
試験・成績評価	試験は行わず, 授業の出欠およびレポートにより評価する.

B. 専門科目(学部)

構造解析学

担当者	前田研一
開講期, 曜日, 時限, 単位	前期 水曜日 3限 2単位
授業概要	<p>材料力学および構造力学の知識を前提に, コンピュータによる土木構造物の解析に用いられる理論とその応用について, 計算力学(Computational Mechanics)の立場から以下の内容を講義する.</p> <p>1. 計算力学とは, 2. エネルギー理論, 3. 骨組構造と計算力学マトリックス構造解析法から有限要素技法まで, 4. 有限要素法(FEM)の構造工学への適用 a) 平面応力問題, b) 平面ひずみ問題, c) 平板の曲げ解析</p> <p>また, 橋梁などの実構造物の解析に適用する際の問題点, 注意点などについても言及する.</p>
テキスト	授業中に配布するものを使用.
参考書, 教材	「構造工学における計算力学の基礎と応用」(土木学会)
履修上の注意	材料力学及び構造力学に関する十分な理解が必要である. また, 実構造物の解析への適用例として引用することがあるので, 鋼構造学を同時に履修していることが望ましい.
履修申請上の注意	成績はレポートによって評価するが, 出席点を考慮して最終判定する.

構造解析学演習

担当者	前田研一(中村一史)
開講期, 曜日, 時限, 単位	後期 木曜日 4限 2単位
授業概要	<p>構造解析学の講義に密接に関連した演習を, 計算力学(Computational Mechanics)の立場から行うもので, コンピュータによる土木構造物の解析計算過程を具体的に理解することを目的として, 以下の内容を取り扱う。</p> <p>1. 有限要素法(FEM)の基礎-解法, モデル化と数値計算法, および, それらによる誤差-, 2. 対話形式ソフトによるばね構造解析, 3. 骨組構造の解析, 4. 2次元男性問題(平面応力, 平面ひずみ)の解析</p> <p>また, 橋梁などの実構造物の解析に適用する際の有限要素法のノウハウなどについても言及する。</p>
テキスト	授業中に配布するものを使用。
参考書, 教材	「パソコンで解く骨組の力学」藤谷・著(丸善), 「パソコンで学ぶ有限要素法入門」楠田他・著(森北出版)
履修上の注意	講義とは独立した内容ではあるが構造解析学をあらかじめ履修しておくことが望ましい。また, 実構造物の解析への適用例として引用することがあるので, 鋼構造学をあらかじめ履修しておくこと, および, 橋梁工学を同時に履修していることが望ましい。
履修申請上の注意	成績はレポートによって評価するが, 出席点を考慮して最終判定する。

材料・構造実験

担当者	前田研一(中村一史), 西村和夫, 長嶋文雄, 野上邦栄, 宇治公隆
開講期, 曜日, 時限, 単位	<p>前期 木曜日 3,4限 2単位</p> <p>前期 月曜日 5,6限(奇数年開講) 2単位</p>
授業概要	<p>土木構造物を構成している材料(コンクリート, 鋼材)の基本的性質, および静的・動的荷重作用時における構造物の挙動を実験を通して理解する。また, 実際に実験装置, 計測装置を扱い, それらの仕組みや操作方法を学ぶ。実験は以下の項目について行う。</p> <p>1. コンクリートの配合設計および練混ぜ, 2. フレッシュコンクリートの試験, 3. 硬化コンクリートの物性および耐久性に関する試験, 4. 超硬練りコンクリートの締固め実験, 5. 鉄筋の引張試験, 6. 矩形断面梁およびI形断面梁による構造実験, 7. 質点系モデルの振動制御実験, 8. 梁モデルを用いた純曲げ載荷等による光弾性実験</p>
テキスト	「コンクリート工学 (I) 施工」彰国社、村田・國府・辻著 「鋼構造学」コロナ社、伊藤 学著 この他、随時関連資料を配付する。
関連科目	<p>必須科目であるコンクリート工学第一, 材料力学 A・B, 構造力学 A・B に関する理解を目的とした実験であり, さらに以下の科目が関連する。</p> <p>「建設材料学」 前期 金曜日 3限 2単位, 前期 水曜日 5限 2単位</p> <p>「鋼構造学」 前期 月曜日 3限 2単位, 前期 木曜日 5限 (奇数年開講) 2単位</p> <p>「土木構造振動学」前期 月曜日 4限 2単位</p>
履修上の注意	コンクリート工学第一を事前に履修しておくことが必要であり、建設材料学を事前あるいは同時に履修しておくことが望ましい。

鋼構造学

担当者	前田研一
開講期, 曜日, 時限, 単位	前期 月曜日 3限 2単位 後期 水曜日 6限(奇数年開講) 2単位
授業概要	<p>鋼材は、コンクリートとともに、土木構造物に使用される主要な材料の一つである。本講義は、土木分野の代表的な鋼構造物である橋梁を設計するために必要な基礎的知識の修得と判断力の養成を目的としたもので、主な授業項目は以下のようである。</p> <p>1. 土木鋼構造物の種類と変遷, 2. 経済的で美しく強い構造物とは, 3. 構造設計の基本的考え方, 4. 各種設計法と、設計基準の国際化, 5. 鋼材の性質と、鋼部材の不安定性, 6. 鋼部材の連結、接合, 7. 現場への運搬、および、架設工法の種類</p> <p>なお、カラーの資料を多用するとともに、架設工法の説明などでは、ビデオの使用も予定している。</p>
テキスト	授業中に配布するものを使用。
関連科目	「鋼構造学」伊藤・著（コロナ社）、「橋の世界」藤原他・著（山海堂）、「橋梁工学」長井・著（共立出版）
履修上の注意	材料力学および構造力学に関する十分な理解が必要である。また、本講義の履修を前提としているので、橋梁工学の履修を予定している者は本講義をあらかじめ履修しておくことが望ましい。
試験・成績評価	成績はレポートによって評価するが、出席点を考慮して最終判定する。

鋼構造設計製図 指定科目

担当者	前田研一(中村一史), 野上邦栄
開講期, 曜日, 時限, 単位	後期 金曜日 1・2限 2単位 後期 月・火曜日 6限(奇数年開講) 2単位
授業概要	<p>鋼構造物の設計方法、および、製図方法を修得し、設計計算書、および、設計図面を理解できるようにすることを目的としており、代表的な鋼構造物である橋梁のなかで、最も基本的な形式のプレートガーダ橋を対象として以下の内容を取り扱う。</p> <p>1. プレートガーダ橋の概要説明（実橋見学）、2. 主桁（補鋼材、連結、接合を含む）の設計計算と製図、3. 2次部材の設計計算と製図（トレース）、4. 各自が設計した橋梁の模型製作、5. 橋梁の架設現場見学</p> <p>なお、各自が設計した橋梁の図面や、その模型などは、採点后、希望者に返還する。</p>
テキスト	授業中に配布するものを使用。
参考書等	「橋梁工学」長井・著（共立出版）、「例題で学ぶ橋梁工学」中井他・著（共立出版）
履修上の注意	本設計製図を履修するためには、鋼構造学をあらかじめ履修しておく必要がある。また、関連する内容を多く含むことから、橋梁工学も同時に履修することが望ましい。なお、近年、鋼・コンクリート複合構造が増加しつつあり、鉄筋コンクリート設計製図とともに履修することを勧めたい。
試験・成績評価	成績は複数のレポートによって評価するが、その提出日の遅延や、現場見学などの出席点も考慮して最終判定する。

土木工学ゼミナール

担当者	前田研一
開講期, 曜日, 時限, 単位	前期 木曜日 1限 2単位
授業概要	<p>我が国における吊橋, 斜張橋などの長大吊形式橋梁の発展には目を見張るものがある。これは, ケーブルなどの材料の発達とともに, 解析理論の確立や, コンピュータ技術の進歩に伴う設計支援システムの出現, および, IT を含むハイテク技術を駆使した施工支援システムの開発に負うところ大である。</p> <p>ともに世界最長の明石海峡大橋(吊橋)や, 多々羅大橋(斜張橋)が完成した現在もなお, 長大化の歩みは止まるところ知らず, さらに, より大規模な海峡横断プロジェクト構想が続々と発表され, 新素材の開発にも呼応して, 斬新なアイデアによる超長大橋の提案が国内外で増加している。</p> <p>本ゼミナールでは, 長大吊形式橋梁の設計, 施工におけるコンピュータの利用状況と, 適用されているプログラムシステムの内容について概要を説明する。また, 新材料, 新素材の開発状況にも言及しながら, より長大化することによって新たに発生してきた問題点をピックアップする。さらに, 担当者によって提案されているものを含め, 種々の超長大橋案とその特色, および, 実現性などについても述べる。</p>
履修上の注意	本ゼミナールは, 特別研究の準備段階に位置付けられるものであり, 担当者を指導教官として特別研究を行う予定の者は必ず履修しておかなければならない。

C. 専門科目(大学院)

構造工学特論及び演習

担当者	前田研一
開講期, 曜日, 時限, 単位	通年 月曜日 2限 4単位
授業概要	主に橋梁を対象に, 骨組構造の立体解析, および, 非線形解析に関する応用理論と, それに基づく解析法を探求する。さらに, 複合構造を含む実構造物の完成系, 架設系における同上に関する問題の演習を行う。

D. 他大学非常勤講師

橋梁工学 (武蔵工業大学工学部土木工学科)

前田研一: ~平成4年度

構造力学及演習(1) (法政大学工学部土木工学科)

中村一史: 平成14年度~

2) 学内担当委員会および学科・専攻担当役職

年度	種別	委員会名または役職名
平成4年度	工学部	推薦入学志願者選考委員会
	土木工学科	学科幹事 土木学会班長
平成5年度	工学部	編入学管理委員会 編入学単位認定委員会
	土木工学科	土木学会班長
平成6年度	工学部	教務委員会
	土木工学科	カリキュラム担当 測量実習担当 学外実習担当 土木学会班長
平成7年度	工学部	教務委員会
	土木工学科	カリキュラム担当 測量実習担当 土木学会班長
平成8年度	工学部	特別入学志願者選考委員会 環境整備委員会
	土木工学科	測量実習担当 土木学会班長
平成9年度	全学	一般教育委員会 データ保護委員会
	土木工学科	カリキュラム担当 測量実習担当 土木学会班長
平成10年度	全学	一般教育委員会 データ保護委員会
	土木工学科	カリキュラム担当 土木学会班長
平成11年度	工学研究科	専攻主任
	工学部	学科主任
	土木工学科・専攻	土木学会班長 懇親会担当(会長)
平成12年度	工学研究科	専攻主任代理 産学提携事業等検討委員会
	工学部	学科主任代理
	土木工学科・専攻	見学担当 土木学会班長 同窓会担当(副会長)
平成13年度	工学研究科	環境安全委員会
	工学部	自己点検・評価委員会 外部評価実行委員会
	土木工学科・専攻	土木学会班長
平成14年度	全学	工作施設委員会
	工学研究科	エンジニアリングスクール・タスクフォース
	工学部	自己点検・評価委員会
	土木工学科・専攻	土木学会班長

3) 構造研究室・橋梁研究室合同ゼミ(全体ゼミ)

A. 全体ゼミ・スケジュール, 等

4月中旬	第1回全体ゼミ	橋梁研究室研究紹介および歓迎会
5月中旬	第2回全体ゼミ	構造研究室研究紹介および親睦会
6月中旬	第3回全体ゼミ	外部講演者特別講演および親睦会
7月中旬	第4回全体ゼミ	外部講演者特別講演および親睦会
8月上旬	[夏季ゼミ(修論・卒論概要発表)・見学旅行]	
9月下旬	[土木学会全国大会年次学術講演-前年度修論・卒論生発表]	
10月上旬	第5回全体ゼミ	修論・卒論中間発表および親睦会
11月上旬	[大学祭(理工祭)展示・説明]	
11月中旬	第6回全体ゼミ	修論・卒論中間発表および親睦会
12月中旬	第7回全体ゼミ	修論・卒論中間発表および忘年会
2月中旬	[修論・卒論原稿仮提出][修論・卒論発表会練習][修論審査会]	
2月中旬	[修論・卒論 学科・専攻発表会, 判定会議][打ち上げパーティー]	
2月下旬	[修士論文提出]	
3月下旬	[卒業論文提出][卒業式・修了式および学科・専攻謝恩会]	

B. 外部講演者特別講演

平成11年6月15日	住友建設(社会人博士課程)	近藤真一 氏
平成11年7月13日	長大	近藤膺舒 氏
平成12年6月6日	明星大学工学部土木工学科	鈴木博之 先生
平成12年7月4日	住友建設(前掲)	近藤真一 氏
平成13年6月19日	住友建設(前掲)	近藤真一 氏
平成13年7月10日	土木構造学講座土木材料研究室	國府勝郎 先生

C. 夏季ゼミ・見学旅行

平成6年度	明石海峡大橋建設現場見学
平成7年度	竜神大吊橋および土木研究所施設の見学
平成8年度	眼鏡橋および第二千曲川橋梁建設現場の見学
平成9年度	山形県内のPC橋建設現場見学
平成10年度	第二名神建設現場および桃介橋の見学
平成11年度	名港大橋および揖斐川・木曾川橋建設現場の見学
平成12年度	工場見学および宇都宮市内高架橋建設現場見学
平成13年度	第二東名建設現場および近代土木遺産保存橋梁の見学

D. 大学祭（理工祭）展示・説明

平成 10 年度	パネルによる研究紹介，明石海峡大橋 1/200 模型の製作・展示，明石海峡大橋建設記録のビデオ上映，橋クイズ
平成 11 年度	パネルによる研究紹介，明石海峡大橋 1/200 模型の展示，斜張橋模型の製作・展示，研究室ホームページの作成と公開，明石海峡大橋建設記録のビデオ上映，橋クイズ
平成 12 年度	パネルによる研究紹介，明石海峡大橋 1/200 模型の展示，斜張橋模型の展示，アーチ橋の模型の製作・展示，研究室ホームページの作成と公開，大学周辺の橋の紹介，本州四国連絡橋建設記録のビデオ上映，橋クイズ
平成 13 年度	パネルによる研究紹介，明石海峡大橋 1/200 模型および斜張橋模型の展示，吊橋模型の製作・展示，大学周辺の橋の紹介，多摩川に架かる橋の紹介（機械工学専攻 鈴木浩平先生提供），本州四国連絡橋建設記録のビデオ上映，橋クイズ

4) 構造研究室・橋梁研究室共有設備・備品

施設・設備名	購入年	主な性能
静的・動的構造物載荷システム	2002年	供試体寸法：D2,300×W2,000×L4,000 mm，加振力：500kN(水平)，1500kN(垂直)，最大振幅：±200mm(水平)，±100mm(垂直)，最大速度：4.5cm/sec，3mm@3Hz，その他：油圧源・制御装置一式
反力壁	1991年	載荷能力：200tf(1.0tf/m ²)
載荷ベッド	1991年	載荷能力：200tf(1.0tf/m ²)
疲労試験機(100kN)	2001年	フレーム内有効寸法：B1,000×W1,000×H750 mm，加振力：静的±150kN，動的±100kN，最大振幅：±25mm，加振周波数：0.01～40Hz，その他：油圧源・制御装置一式
疲労試験機(50kN)	1979年	フレーム内有効寸法：H350×W280mm，加振力：静的±75kN，動的±50kN，最大振幅：±25mm，加振周波数：0.01～40Hz，その他：油圧源・制御装置一式
振動台試験機	1997年	テーブル寸法：1,200×1,200mm，搭載能力：1.0tf，加振力：20kN(水平)，30kN(垂直)，最大振幅：±100mm(水平)，±50mm(垂直)，最大加速度：1.0G(最大搭載時)，加振周波数：0.1～25Hz，その他：油圧源・制御装置一式
万能試験機	1988年	テーブル寸法：750×750mm，載荷能力：1,000kN，つかみ具間隔：最大1,000mm，ラムストローク：250mm，その他：油圧源・制御装置一式
はり構造力学実験装置 (学生実験用)	1997年	模型はり：矩形断面はり，寸法：W30×H5×L800mm，支承：3種類（ピン・ローラー・固定），材質：鋼(はり本体・フレーム)，その他：荷重装置一式
I型断面はり載荷試験装置 (学生実験用)	1998年	模型はり：I桁断面単純はり，寸法：上下フランジ幅60mm×桁高200mm×スパン3,000mm，荷重装置：10kg×10個，材質：アルミニウム(はり本体)，鋼(支持台)
ワークステーション	1995年 ～1999年	① CPU：RISC 33MHz，メモリ：96MB，HDD：4GB，OS：UNIX・・・1台 ② CPU：Alpha600MHz，メモリ：384MB，HDD：13GB，OS：MS WindowsNT4・・・1台 ③ CPU：21264A 500MHz，メモリ：2GB，HDD：18GB，OS：Tru64 (UNIX)・・・2台
パーソナルコンピュータ	1997年 ～2002年	デスクトップ型：17台 ノート型：4台

3. 研究指導

1) 博士論文

NO.	学位取得者	主査	副査	テーマ(年月)
1	石井孝男 (論文)	成田信之	國府勝郎 前田研一	疲労寿命を考慮した鋼橋RC床版の設計法と維持管理に関する研究(1994年3月)
2	野村國勝 (課程)	成田信之	今田 徹 前田研一	吊形式橋梁の合理的構造システムと超長大橋への適用に関する研究(1995年3月)
3	林 重紀夫 (課程)	成田信之	岩楯敏広 前田研一	橋梁への免震機構の適用性に関する研究(1997年3月)
4	増渕文男 (論文)	成田信之	前田研一 秋山哲男 篠原 修	横断歩道橋における構造と意匠の変遷に関する研究(1997年6月)
5	菊地敏男 (論文)	岩楯敏広	前田研一 長嶋文雄	地盤～構造物連成系による連壁剛体基礎の耐震性に関する研究(1997年6月)
6	久下晴巳 (課程)	國府勝郎	前田研一 秋山哲男	高齢者の歩行安全性を考慮するための路面特性に関する研究(1999年3月)
7	伊東孝祐 (論文)	秋山哲男	伊東 孝 前田研一 中林一樹	東京の震災復興橋詰広場に関する都市計画史的研究(2000年6月)
8	松井幹雄 (論文)	西村和夫	前田研一 長嶋文雄 野上邦栄	個別要素法の底面摩擦模型実験への適用と連続体解析への拡張性に関する研究(2001年12月)
9	近藤真一 (課程)	前田研一	國府勝郎 野上邦栄 宇治公隆	コンクリート吊形式橋梁の合理的な構造とその複合システムに関する研究(2002年3月)

2) 修士論文

NO.	学位取得者	主査	副査	テーマ	年度
1	井野勝彦	成田信之 (国井隆弘)	前田研一 湯浅欽史	免震設計における橋梁部材の塑性化の影響に関する研究	1992
2	中村一史	成田信之 (国井隆弘)	前田研一 今田 徹	斜張吊橋の構造特性に関する基礎的研究	1993
3	瀬戸内秀規	前田研一	成田信之 西村和夫	長大斜張橋の立体有限変位解析法に関する研究	1993
4	伊藤栄章	成田信之	前田研一 岩楯敏広	免震装置と橋脚の相互作用を考慮した簡易設計法に関する研究	1994
5	宋 立輝	成田信之	前田研一 長嶋文雄	骨組構造物の非線形構造解析における弧長制御パラメータ評価に関する研究	1994
6	保坂俊晃	前田研一	成田信之 長嶋文雄	MONO-DUO 形式による超長大吊橋の耐風安定化に関する基礎的研究	1994
7	岩崎興治	成田信之	前田研一 岩楯敏広	橋梁用免震装置の最適特性値探索に関する研究	1995
8	佐藤広直	前田研一	成田信之 長嶋文雄	長大斜張吊橋におけるケーブルシステムの効果に関する研究	1995
9	伊藤博昭	成田信之	前田研一 長嶋文雄	鋼骨組構造の終局強度設計における等価初期不整に関する研究	1996
10	田平秀和	前田研一	成田信之 長嶋文雄	リジットハンガーによる MONO-DUO 形式超長大吊橋の耐風安定化策に関する研究	1996
11	山内貴宏	前田研一	成田信之 秋山哲男	鉄製上路アーチ橋の構造デザインの変遷と近代土木遺産としての評価	1996
12	山沢哲也	長嶋文雄	成田信之 前田研一	鋼・コンクリート部材の衝撃挙動に関する解析的研究	1996
13	岩崎秀隆	成田信之	前田研一 長嶋文雄	超長大斜張橋主桁の終局強度特性と安全性照査法に関する研究	1997
14	栗原康行	成田信之	前田研一 大賀宏行	弾塑性有限変位解析に基づく設計法による骨組の最適設計問題に関する基礎的研究	1997
15	岩名信之	前田研一	成田信之 秋山哲男	旧東京市域における近代橋梁の構造と意匠の変遷	1997
16	志水 平	前田研一	成田信之 大賀宏行	MONO-DUO 形式化およびリジットハンガーによる超長大吊橋の耐風安定化策に関する研究	1997
17	平野和志	前田研一	成田信之 長嶋文雄	長大斜張橋の座屈安定解析とその不安定現象の探究	1997
18	紺野 誠	前田研一	野上邦栄 長嶋文雄	塑性化の影響を考慮した等価初期不整法による長大斜張橋の終局強度解析	1998
19	伊藤太郎	前田研一	野上邦栄 長嶋文雄	新吊形式橋梁の経済性と耐風安定化策に関する研究	1999
20	栗原直久	前田研一	野上邦栄 國府勝郎	新素材主ケーブル超長大吊橋の静的・動的構造特性と経済性	1999
21	師山 裕	前田研一	野上邦栄 長嶋文雄	ケーブルの材料特性を考慮した長大斜張橋の弾塑性有限変位解析	1999
22	西出 大	野上邦栄	前田研一 長嶋文雄	簡易モデルを用いた吊橋主塔の耐荷力挙動に関する研究	1999
23	齋藤一則	野上邦栄	前田研一 國府勝郎	超長大吊橋の終局挙動に着目した安全率の合理化に関する研究	1999
24	柴田晃一	野上邦栄	前田研一 長嶋文雄	長大斜張橋の耐荷力評価法の精度比較と座屈照査法に関する研究	1999
25	松原拓朗	野上邦栄	前田研一 西村和夫	半剛結ばねを有する鋼ラーメン構造物の非線形挙動に関する開発研究	1999

26	齋藤 聡	長嶋文雄	前田研一 大賀宏行	ニューラルネットワーク理論の動的解析への応用に関する研究	1999
27	五丁康成	前田研一	野上邦栄 長嶋文雄	超長大斜張吊橋の座屈安定性に関する研究	2000
28	重岡剛雄	前田研一	野上邦栄 宇治公隆	超長大吊橋の構造特性に及ぼす CFRP 主ケーブル強度の影響	2000
29	深谷 力	野上邦栄	前田研一 宇治公隆	長大吊橋 RC 主塔のモデル化と面外終局挙動特性に関する基礎的研究	2000
30	渡辺泰孝	野上邦栄	前田研一 長嶋文雄	Ef 法と弾塑性有限変位解析による斜張橋の終局強度特性に関する研究	2000
31	仲西竜伸	野上邦栄	前田研一 國府勝郎	超長大吊橋の終局強度に着目した合理的な安全率のバランス化に関する研究	2000
32	岡田尚千	前田研一	野上邦栄 長嶋文雄	曲線 PC 免震橋のモデル化と地震時特性	2001
33	宗澤研郎	前田研一	野上邦栄 宇治公隆	オールプラスチック極超長大橋の実現可能性	2001
34	小栗友紀	野上邦栄	前田研一 宇治公隆	既設鋼構造部材の腐食減厚に伴う残存耐荷性能とその評価法に関する研究	2001

3) 学士論文(特別研究－卒業論文)

NO.	学位取得者	指導教員	テーマ	年度
1	今井賢文	前田研一	長大斜張橋の形状決定とサグの影響に関する研究	1992
2	保坂俊晃	前田研一	主ケーブルの2次応力を考慮した長大吊橋の有限変位解析	1992
3	佐藤広直	前田研一	長大斜張橋の架設時挙動とそれに基づく架設工法の選定	1993
4	大井孝晃	前田研一	長大斜張橋の架設時挙動に及ぼすケーブルのサグの影響	1993
5	黒野雅利	前田研一	振動数の近接した連成モードを有する2径間吊床版橋の減衰特性と振動使用性	1994
6	中田 聡	前田研一	ケーブルの弛緩を考慮した長大斜張橋の座屈有限変位解析	1994
7	田平秀和	前田研一	MONO-DUO 形式超長大吊橋の形状決定と静的構造特性に関する研究	1994
8	山内貴宏	前田研一	東京の市街地における鋼上路アーチ橋の近代土木遺産としての評価	1994
9	岩名信之	前田研一	旧東京市域に現存する鉄製トラス橋の構造デザインと近代土木遺産としての評価	1995
10	後藤克人	前田研一	超長大斜張吊橋の構造特性とその実現性に関する研究	1995
11	志水 平	前田研一	MONO-DUO 形式超長大吊橋の補助ハンガーシステムに関する研究	1995
12	永野久子	前田研一	ラーメン橋台橋の構造デザインと近代土木遺産としての評価	1995
13	平野和志	前田研一	長大斜張橋の座屈有限解析法と特異点解析	1995
14	紺野 誠	前田研一	長大斜張橋の強風時横ねじり座屈特性に及ぼすケーブルの弛緩の影響	1996
15	中津川宏和	前田研一	超長大吊橋の耐風安定化策と連成フラッター特性に関する研究	1996
16	伊藤太郎	前田研一	超長大斜張吊橋の静的および動的耐風安定性に関する研究	1997
17	栗原直久	前田研一	超長大箱桁吊橋の耐風安定化策の改善方法に関する研究	1997
18	高橋勝久	前田研一	長大斜張橋の強風時横ねじり座屈特性とその耐風安定化策	1997
19	師山 裕	前田研一	長大斜張橋の初期不整を考慮した弾塑性有限変位解析	1997
20	阿部 誠	前田研一	長大斜張橋の経済性および耐風安定性の向上策	1998
21	五丁康成	前田研一	副タワーを有する超長大斜張吊橋の耐風安定化策	1998
22	重岡剛雄	前田研一	主ケーブルに新素材を適用した超長大吊橋の基礎的研究	1998
23	井手康介	前田研一	超長大斜張吊橋の架設計算と主ケーブルの2次応力解析	1999
24	岡田尚千	前田研一	PC 免震橋の曲率半径および加振方向が地震時特性に及ぼす影響について	1999
25	関根章裕	前田研一	長大斜張橋の構造特性および経済性に及ぼす主桁の面内支持条件の影響	1999
26	宗澤研郎	前田研一	主ケーブルに新素材(CFRP)を用いた超長大吊橋の静的構造特性に関する研究	1999
27	土肥千夏	前田研一	CFRP 板による鋼構造物の補修に関する基礎的研究	2000
28	山下真一	前田研一	長大斜張橋主桁の塔位置支持条件と経済性	2000
29	藤岡泰輔	前田研一	長大斜張橋主桁の座屈安定性に及ぼす材料特性と荷重条件	2000
30	神原由紀	前田研一	GFRP 歩道橋に関する基礎的研究	2001
31	穴田洋介	前田研一	立体 A 型塔を有する長大斜張橋の終局挙動	2001
32	山内 隆	前田研一	CFRP 板により補修された鋼部材の疲労寿命予測	2001

4) 土木学会全国大会年次学術講演会・口頭発表

- (1) 磯 光夫, 伊藤清忠, 前田研一, 野村國勝: 中小橋梁景観の向上に関する一提案, 第 47 回, I-542, pp.1258-1259 (1992)
- (2) 林 亜紀夫, 成田信之, 井野勝彦, 伊藤栄章, 前田研一: 橋脚の地震時保有水平耐力に配慮した免震特性の設定, 第 48 回, I-376, pp.900-901 (1993)
- (3) 野村國勝, 中崎俊三, 吉村 健, 成田信之, 前田研一: スパン 900m 斜張吊橋の試設計, 第 48 回, I-431, pp.1010-1011 (1993)
- (4) 磯 光夫, 伊藤清忠, 前田研一, 池辺輝義, 越後 滋, 野村國勝: 排水装置を用いた橋梁の景観向上について, 第 48 回, I-561, pp.1270-1271 (1993)
- (5) 前田研一, 成田信之, 今井賢文, 保坂俊晃, 瀬戸内秀規: 長大斜張橋の形状決定に関する 2,3 の考察, 第 48 回, I-584, pp.1316-1317 (1993)
- (6) 前田研一, 中村一史, 成田信之, 林 正, 佐藤廣直, 瀬戸内秀規, 大井孝晃: 長大斜張橋の立体有限変位解析における形状決定, 第 49 回, I-30, pp.60-61 (1994)
- (7) 中村一史, 前田研一, 成田信之, 林 正, 佐藤廣直, 瀬戸内秀規, 大井孝晃: ケーブルの弛緩を考慮した長大斜張橋の立体有限変位解析, 第 49 回, I-31, pp.62-63 (1994)
- (8) 野村國勝, 中崎俊三, 片山哲夫, 杉山幸一, 成田信之, 前田研一: 超長大吊橋トラス桁の主におねじり剛性に着目した耐風構造について, 第 49 回, I-552, pp.1102-1103 (1994)
- (9) 森園康之, 藤野陽三, 前田研一, 長井正嗣: MONO-DUO 形式による超長大吊橋の耐風安定化に対する基礎的検討, 第 49 回, I-556, pp.1110-1111 (1994)
- (10) 林 亜紀夫, 成田信之, 岩崎興治, 前田研一: 免震橋梁における特性値の最適化に関する一考察, 第 49 回, I-642, pp.1282-1283 (1994)
- (11) 中村一史, 前田研一, 成田信之, 林 正, 中田 聡: ケーブルの弛緩を考慮した長大斜張橋の座屈有限変位解析, 第 50 回, I-196, pp.392-393 (1995)
- (12) 前田研一, 中村一史, 秋山哲男, 山内貴宏, 伊東 孝: 市街地における鉄製上路アーチ橋の構造デザインの変遷, 第 50 回, I-233, pp.466-467 (1995)
- (13) 黒野雅利, 前田研一, 角本 周: 振動数の近接したモードを有する 2 径間連続吊床版橋の振動使用性, 第 50 回, I-487, pp.974-975 (1995)
- (14) 田平秀和, 森園康之, 藤野陽三, 前田研一, 長井正嗣: MONO-DUO 形式による超長大吊橋の耐風安定化対策と静的構造特性, 第 50 回, I-693, pp.1386-1387 (1995)
- (15) 保坂俊晃, 前田研一, 藤野陽三, 森園康之, 長井正嗣: MONO-DUO 形式による超長大吊橋の耐風安定化対策と振り振動特性, 第 50 回, I-694, pp.1388-1389 (1995)
- (16) 野村國勝, 中崎俊三, 田巻嘉彦, 成田信之, 前田研一: 超長大斜張吊橋の耐風安定性に関する基礎的研究, 第 50 回, I-698, pp.1396-1397 (1995)
- (17) 林 亜紀夫, 岩崎興治, 成田信之, 前田研一, 伊藤栄章: 免震橋特性値の最適化, 第 50 回, I-789, pp.1578-1579 (1995)

- (18) 市古太郎, 伊東孝祐, 秋山哲男, 前田研一, 伊東 孝, 山内貴宏: 現存状況に見る東京の近代土木遺産の変遷と地域特性—中部 5 県との比較—, 第 50 回, IV-407, pp.814-815 (1995)
- (19) 山内貴宏, 前田研一, 中村一史, 秋山哲男, 伊東 孝: 旧東京市域における鉄製上路アーチ橋の史的
分析, 第 50 回, IV-410, pp.820-821 (1995)
- (20) 平野和志, 中村一史, 前田研一, 成田信之, 林 正: 長大斜張橋の座屈有限変位解析法と特異点解析,
第 51 回, I-A71, pp.142-143 (1996)
- (21) 永野久子, 山内貴宏, 前田研一, 中村一史, 秋山哲男, 伊東 孝: 近代におけるラーメン橋台橋の構
造デザインの分析と評価, 第 51 回, I-A82, pp.164-165 (1996)
- (22) 岩名信之, 山内貴宏, 前田研一, 中村一史, 秋山哲男, 伊東 孝: 東京の市街地に現存する近代トラ
ス橋の構造デザイン, 第 51 回, I-A83, pp.166-167 (1996)
- (23) 田平秀和, 前田研一, 岩本政巳, 森園康之, 長井正嗣, 藤野陽三: リジッドハンガーフレームを用い
た MONO-DUO 形式超長大吊橋の耐風安定性, 第 51 回, I-A205, pp.410-411 (1996)
- (24) 志水 平, 前田研一, 岩本政巳, 森園康之, 長井正嗣, 藤野陽三: ステイハンガーを用いた MONO-DUO
形式超長大吊橋の耐風安定性, 第 51 回, I-A206, pp.412-413 (1996)
- (25) 後藤克人, 野村國勝, 中崎俊三, 成田信之, 前田研一, 中村一史: 超長大斜張吊橋の吊橋区間長と耐
風・座屈安定性, 第 51 回, I-A218, pp.436-437 (1996)
- (26) 佐藤廣直, 成田信之, 前田研一, 中村一史, 野村國勝, 中崎俊三: 長大斜張吊橋のケーブルのサグの
影響と補助ケーブルシステムの効果, 第 51 回, I-A312, pp.624-625 (1996)
- (27) 山内貴宏, 前田研一, 中村一史, 秋山哲男, 岩名信之, 伊東 孝: 近代の市街地における鉄製上路ア
ーチ橋のヒンジ構造の変遷, 第 52 回, CS-113, pp.226-227 (1997)
- (28) 紺野 誠, 平野和志, 中村一史, 前田研一, 成田信之, 林 正: 長大斜張橋の強風時横ねじり座屈特
性に及ぼすケーブルの弛緩の影響, 第 52 回, I-A270, pp.538-539 (1997)
- (29) 斎藤正之, 伊藤徳昭, 成田信之, 前田研一, 山本 守, 堀川寿之, 松田 篤, 大久保義昭, 松井鋭一:
鋼道路橋の再利用に関する一考察, 第 52 回, I-A287, pp.572-573 (1997)
- (30) 松本憲文, 神澤福男, 藤本 朗, 成田信之, 前田研一: 単純活荷重合成 I 桁橋の外ケーブル補強に関
するケーススタディ, 第 52 回, I-A310, pp.618-619 (1997)
- (31) 岩本政巳, 川瀬弘靖, 藤野陽三, 前田研一: 非定常空気力の有限次数近似モデルを用いた超長大吊橋
の多モードフラッター解析, 第 52 回, I-B51, pp.102-103 (1997)
- (32) 田平秀和, 志水 平, 前田研一, 岩本政巳, 森園康之, 長井正嗣, 藤野陽三: 超長大吊橋の耐風安定
化対策と暴風時における静的不安定問題, 第 52 回, I-B59, pp.118-119 (1997)
- (33) 中津川宏和, 田平秀和, 前田研一, 岩本政巳, 森園康之, 長井正嗣, 藤野陽三: 超長大吊橋の耐風安
定化対策と連成フラッター特性, 第 52 回, I-B60, pp.120-121 (1997)
- (34) 岩名信之, 前田研一, 中村一史, 秋山哲男, 伊東 孝: 旧東京市域における鉄製桁橋の構造デザイン
の変遷, 第 53 回, CS-56, pp.110-111 (1998)
- (35) 平野和志, 中村一史, 前田研一, 成田信之, 林 正: 長大斜張橋の初期不整の影響が及ぼす弾性分岐
座屈挙動について, 第 53 回, I-A132, pp.264-265 (1998)

- (36) 師山 裕, 紺野 誠, 前田研一, 中村一史, 野上邦栄, 成田信之, 林 正: 長大斜張橋の初期不整を考慮した弾塑性有限変位解析, 第 53 回, I-A133, pp.266-267 (1998)
- (37) 中村一史, 前田研一, 成田信之, 野村國勝: 超長大斜張吊橋の試設計と静的風荷重に関する主桁の補強, 第 53 回, I-B60, pp.120-121 (1998)
- (38) 伊藤太郎, 中村一史, 前田研一, 成田信之, 野村國勝: 超長大斜張吊橋の静的および動的耐風安定性, 第 53 回, I-B61, pp.122-123 (1998)
- (39) 栗原直久, 志水 平, 前田研一, 岩本政巳, 森園康之, 長井正嗣, 藤野陽三: 超長大箱桁吊橋の耐風安定化策の改善に関する研究, 第 53 回, I-B65, pp.130-131 (1998)
- (40) 志水 平, 前田研一, 岩本政巳, 森園康之, 長井正嗣, 藤野陽三: MONO-DUO 形式超長大吊橋の MONO 区間長と耐風安定性に関する研究, 第 53 回, I-B66, pp.132-133 (1998)
- (41) 磯 光夫, 池辺輝義, 前田研一: 排水装置の機能と景観に関する一考察, 第 54 回, I-A111, pp.222-223 (1999)
- (42) 紺野 誠, 師山 裕, 中村一史, 前田研一, 林 正: 長大斜張橋の分岐座屈特性に及ぼす主桁の初期たわみの影響と荷重の載荷位置, 第 54 回, I-A282, pp.564-565 (1999)
- (43) 森園康之, 江口立也, 前田研一, 中村一史, 藤野陽三: 新素材ケーブルを用いた吊橋の経済性に関する試算, 第 54 回, I-A303, pp.606-607 (1999)
- (44) 阿部 誠, 師山 裕, 中村一史, 前田研一, 林 正: 長大斜張橋主桁の面外弾性支持による経済性の向上, 第 54 回, I-A306, pp.612-613 (1999)
- (45) 五丁康成, 伊藤太郎, 中村一史, 前田研一, 岩本政巳: 副塔を有する超長大斜張吊橋の耐風安定性とその安定化策, 第 54 回, I-B356, pp.708-709 (1999)
- (46) 重岡剛雄, 前田研一, 中村一史, 森園康之, 江口立也, 藤野陽三: 主ケーブルに新素材を用いた超長大吊橋の構造特性と耐風安定性, 第 54 回, I-B357, pp.710-711 (1999)
- (47) 師山 裕, 前田研一, 中村一史, 林 正: ケーブルの材料特性を考慮した長大斜張橋の終局強度と載荷条件, 第 55 回, I-A146, CD-ROM (2 頁) (2000)
- (48) 宗澤研郎, 前田研一, 森園康之, 中村一史, 江口立也, 藤野陽三: 新素材主ケーブル超長大吊橋のサグ比と経済性, 第 55 回, I-A207, CD-ROM (2 頁) (2000)
- (49) 井手康介, 前田研一, 中村一史, 五丁康成: 超長大斜張吊橋の架設時挙動と主ケーブルの 2 次応力, 第 55 回, I-A213, CD-ROM (2 頁) (2000)
- (50) 関根章裕, 中村一史, 前田研一, 林 正: 長大斜張橋の構造特性および経済性に及ぼす主桁の面内支持条件の影響, 第 55 回, I-A215, CD-ROM (2 頁) (2000)
- (51) 栗原直久, 前田研一, 中村一史, 森園康之, 江口立也, 藤野陽三: 新素材主ケーブル超長大吊橋のサグ比と動的耐風安定性, 第 55 回, I-B62, CD-ROM (2 頁) (2000)
- (52) 岡田尚千, 中村一史, 前田研一, 林 亜紀夫, 山本一敏, 渡辺誠晶: PC 免震橋の地震時特性に及ぼす曲率半径および加振方向の影響, 第 55 回, I-B389, CD-ROM (2 頁) (2000)
- (53) 山下真一, 中村一史, 前田研一: 長大斜張橋主桁の塔位置支持条件と経済性, 第 56 回, I-A183, CD-ROM (2 頁) (2001)

- (54) 宗澤研郎, 前田研一, 中村一史, 重岡剛雄, 森園康之, 江口立也, 藤野陽三: CFRP 主ケーブル超長大吊橋の構造特性と経済性, 第 56 回, I-A187, CD-ROM (2 頁) (2001)
- (55) 中村一史, 山沢哲也, 前田研一, 土肥千夏, 入部孝夫, 高木秀敏, 鈴木博之: CFRP 板による鋼部材の補修に関する基礎的研究, 第 56 回, I-A219, CD-ROM (2 頁) (2001)
- (56) 藤岡泰輔, 中村一史, 前田研一: 長大斜張橋主桁の座屈安定性に及ぼす材料特性と荷重条件の影響について, 第 56 回, I-B189, CD-ROM (2 頁) (2001)
- (57) 五丁康成, 中村一史, 前田研一: 超長大斜張吊橋の斜張区間と座屈安定性, 第 56 回, I-B191, CD-ROM (2 頁) (2001)
- (58) 重岡剛雄, 前田研一, 中村一史, 森園康之, 江口立也, 藤野陽三: CFRP 主ケーブル超長大吊橋の構造的耐風安定化策, 第 56 回, I-B390, CD-ROM (2 頁) (2001)
- (59) 宇都宮実, 山口栄輝, 木村吉郎, 久保喜延, 前田研一, 中村一史: MONO-DUO 形式超長大吊橋のフラッター解析に関する研究, 第 56 回, I-B361, CD-ROM (2 頁) (2001)

4. 研究成果

1) 学術論文(審査有)

A. 学会論文集, 等

- (1) 阿部和久・井浦雅司・武田 洋・田村 武・徳永正博・中山 等・前田研一・松田 隆・吉川弘道・吉田 望 (50 音順): 建設技術の研究開発と計算力学の役割, 土木学会論文集, No.453/VI-17, pp.11-22, 1992.
- (2) 磯 光夫・伊藤清忠・前田研一・越後 滋・池辺輝義: プレートガーダー橋の景観向上に関する研究, 構造工学論文集, Vol.40A, 土木学会, pp.667-675, 1994.
- (3) 野村国勝・中崎俊三・吉村 健・前田研一・成田信之: 斜張吊橋の構造特性に関する基礎的研究, 構造工学論文集, Vol.40A, 土木学会, pp.1181-1192, 1994.
- (4) 前田研一・林 正・瀬戸内秀規・中村一史・成田信之: 長大斜張橋の立体有限変位解析, 構造工学論文集, Vol.41A, 土木学会, pp.443-453, 1995.
- (5) 野村国勝・中崎俊三・成田信之・前田研一・中村一史: 長大吊形式橋梁の構造特性と経済性, 構造工学論文集, Vol.41A, 土木学会, pp.1003-1014, 1995.
- (6) 野村国勝・中崎俊三・成田信之・前田研一: 超長大吊橋における補剛トラスの合理的構造に関する研究, 土木学会論文集, No.516/VI-27, pp.131-141, 1995.
- (7) 前田研一・志村 勉・橋 吉宏・越後 滋: プレキャスト床版合成桁斜張橋の設計と施工, 土木学会論文集, No.522/VI-28, pp.57-67, 1995.
- (8) 前田研一・森園康之・岩本政巳・長井正嗣・藤野陽三: 補助ハンガーシステムを併用した MONO-DUO 形式超長大吊橋の構造特性, 構造工学論文集, Vol.42A, 土木学会, pp.1049-1060, 1996.
- (9) 林 亜紀夫・成田信之・前田研一・岩崎興治: 橋梁用免震装置鉛プラグ入り積層ゴム支承の最適特性値探索, 土木学会論文集, No.553/VI-33, pp.117-128, 1996.
- (10) 林 亜紀夫・成田信之・前田研一: 免震橋梁の設計手法における計算精度の向上に関する考察, 構造工学論文集, Vol.43A, 土木学会, pp.811-820, 1997.
- (11) 前田研一・岩本政巳・森園康之・田平秀和・長井正嗣・藤野陽三: MONO-DUO 形式超長大吊橋の耐風安定性, 構造工学論文集, Vol.43A, 土木学会, pp.1209-1220, 1997.
- (12) 中村一史・前田研一・林 正・成田信之: 長大斜張橋の座屈安定解析に関する 2, 3 の考察, 構造工学論文集, Vol.44A, 土木学会, pp.299-306, 1998.
- (13) 前田研一・岩本政巳・森園康之・田平秀和・長井正嗣・藤野陽三: MONO-DUO 形式化とリジッドハンガーによる超長大吊橋の耐風安定化策の実現性, 構造工学論文集, Vol.44A, 土木学会, pp.1199-1210, 1998.
- (14) 中村一史・前田研一・紺野 誠・林 正・成田信之: 長大斜張橋の分岐座屈特性に及ぼす主桁の初期たわみの影響, 構造工学論文集, Vol.45A, 土木学会, pp.291-301, 1999.
- (15) 中村一史・前田研一・紺野 誠・師山 裕・林 正: 長大斜張橋の分岐座屈特性に及ぼす初期たわ

- みの影響と荷重条件, 構造工学論文集, Vol.46A, 土木学会, pp.229-240, 2000.
- (16) 前田研一・森園康之・中村一史・江口立也・藤野陽三:新素材(FRP)ケーブルを用いた超長大吊橋の構造特性と経済性, 構造工学論文集, Vol.46A, 土木学会, pp.1343-1352, 2000.
- (17) 近藤真一・内村高利・中積健一・梶川康男・前田研一:斜張橋を複合させた張弦桁橋の構造特性と振動使用性, 構造工学論文集, Vol.46A, 土木学会, pp.1449-1459, 2000.
- (18) 近藤真一, 梶川康男, 前田研一:コンクリート張弦桁橋の力学特性と車両走行時, 破壊時の挙動, 土木学会論文集, No.704/V-55, pp.201-217, 2002.
- (19) 前田研一, 中村一史, 野村國勝, 成田信之:超長大斜張吊橋の静的・動的構造特性と経済性, 土木学会論文集, No.707/VI-55, pp.177-194, 2002.

B. 協会論文集, 等

- (20) 野村国勝・中崎俊三・前田研一・成田信之:流線形箱桁形式吊橋の補剛特性に及ぼす自重の影響に関する研究, 鋼構造年次論文報告集, 第1巻, 日本鋼構造協会, pp.457-464, 1993.
- (21) 磯 光夫・前田研一・橋 吉宏・越後 滋・金野千代美:小規模斜張橋の色彩・照明計画について, 鋼構造年次論文報告集, 第1巻, 日本鋼構造協会, pp.735-742, 1993.
- (22) 前田研一・藤井 堅・平野 茂・成田信之:吊橋主ケーブル断面内温度の応答解析法と形状管理計画への適用, 鋼構造年次論文報告集, 第1巻, 日本鋼構造協会, pp.843-850, 1993.
- (23) 磯 光夫・前田研一・越後 滋:橋梁の内部景観に関する一考察, 鋼構造年次論文報告集, 第2巻, 日本鋼構造協会, pp.561-566, 1994.
- (24) 越後 滋・町田文孝・寺本耕一・前田研一:腐食の生じたストランドロープの残存強度に関する基礎実験, 鋼構造年次論文報告集, 第2巻, 日本鋼構造協会, pp.589-592, 1994.
- (25) 成田信之・前田研一・野村国勝・中崎俊三・中村一史:超長大斜張吊橋の構造特性と実現可能性に関する基礎的研究, 鋼構造年次論文報告集, 第4巻, 日本鋼構造協会, pp.317-324, 1996.
- (26) 中村一史・前田研一・紺野 誠・林 正・成田信之:長大斜張橋の強風時の横ねじり座屈安定性に及ぼすケーブルの弛緩の影響, 鋼構造年次論文報告集, 第5巻, 日本鋼構造協会, pp.9-14, 1997.
- (27) 成田信之・前田研一・斎藤正之・伊藤徳昭:鋼道路橋の再利用に関する基礎的研究, 鋼構造年次論文報告集, 第5巻, 日本鋼構造協会, pp.345-352, 1997.
- (28) 磯 光夫, 阿部英彦, 岸 靖佳, 長尾昌朋, 前田研一:橋梁における排水装置の機能と景観向上に関する研究, 鋼構造年次論文報告集, 日本鋼構造協会, 第9巻, pp.75-80, 2001.

C. 学協会シンポジウム論文集, 等

- (29) 林 亜紀夫・北川常夫・成田信之・前田研一:橋梁用免震装置の特性値探索手法, 第9回日本地震工学シンポジウム論文集, 日本学術会議, pp.1789-1794, 1994.
- (30) 林 亜紀夫・成田信之・前田研一:大地震時における免震橋梁の下部構造塑性化評価手法, 第9回日本地震工学シンポジウム論文集, 日本学術会議, pp.1873-1878, 1994.
- (31) 林 亜紀夫・成田信之・前田研一:橋梁用免震装置の特性値探索手法と下部構造塑性化の評価, 第3回振動制御コロキウム PART B 講演論文集, 土木学会, pp.91-98, 1995.

- (32) 前田研一：限界状態設計法における橋梁交通振動の解析と計測，橋梁交通振動に関するコロキウム論文集(基調論文編)，土木学会，pp.33-45，1995.
- (33) 角本 周・前田研一・梶川康男・黒野雅利：近接固有振動数を有する吊床版歩道橋の振動使用性に関する検討，橋梁交通振動に関するコロキウム論文集(投稿論文編)，土木学会，pp.207-214，1995.
- (34) 近藤真一・内村高利・中積健一・前田研一：斜張定着張弦桁橋の構造特性について，第9回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム，プレストレストコンクリート技術協会，pp.35-40，1999.
- (35) 江口立也・前田研一・森園康之・中村一史・藤野陽三：超長大吊橋メインケーブルへの CFRP の適用に関する 2,3 の考察，第1回 FRP 橋梁に関するシンポジウム論文集，土木学会，pp.81-86，2001.
- (36) 前田研一・森園康之・中村一史・江口立也・藤野陽三：長大，超長大 CFRP 主ケーブル吊橋の経済性と耐風安定性，第1回 FRP 橋梁に関するシンポジウム論文集，土木学会，pp.87-94，2001.
- (37) 前田研一：鋼橋の疲労，および，維持管理に関する技術基準の国際規格化への対応，橋梁振動コロキウム'01 論文集ーチュートリアル論文ー，土木学会，pp.13-24，2001.

2) 国際会議論文

- (1) Ken-ichi Maeda, Yoshihiro Tachibana, Tsutomu Shimura and Yasuo Kajikawa: Study on Durability of a Cable-Stayed Composite Girder Bridge, Proc. of the 3rd Pacific Structural Steel Conference - Making Steel Friendly for the Next Generation (PSSC '92) in Tokyo, Japan, Japanese Society of Steel Construction (JSSC), pp.875-882, 1992.
- (2) Yoshihiro Tachibana, Ken-ichi Maeda, Shigeru Echigo, Tsutomu Shimura and Mitsuo Iso: Construction of a Cable-Stayed Composite Girder Bridge with Precast RC Slabs, Proc. of the 4th East Asia-Pacific Conference on Structural Engineering & Construction - Progress in Harmony (EASEC-4) in Seoul, Korea, International Steering Committee by Seoul National Univ., pp.1085-1090, 1993.
- (3) Akio Hayashi, Nobuyuki Narita and Ken-ichi Maeda: Optimization of Characteristic Values for a Seismic Isolation Bridge, Proc. of the 5th East Asia-Pacific Conference on Structural Engineering & Construction - Building for the 21st Century (EASEC-5) in Gold Coast, Queensland, Australia, International Steering Committee by Griffith Univ., pp.1527-1532, 1995.
- (4) Akio Hayashi, Nobuyuki Narita and Ken-ichi Maeda: Optimization of Characteristic Value of Seismic Isolated Bridges, Proc. of the 11th World Conference on Earthquake Engineering (11 WCEE) in Acapulco, Mexico, International Association for Earthquake Engineering (IAEE), Pergamon & Elsevier Science, CD-ROM Paper No.1350 (8 pp.), 1996.
- (5) Hitoshi Nakamura, Ken-ichi Maeda, Masa Hayashi and Nobuyuki Narita: Buckling Stability Analysis of a Long-Span Cable-stayed Bridge by Finite Displacement Theory, Proc. of the International Colloquium on Computation of Shell and Spatial Structures (ICSS '97) in Taipei, Taiwan, International Association for Shell and Spatial Structures (IASS), pp.139-144, 1997.
- (6) Nobuyuki Narita, Ken-ichi Maeda, Hitoshi Nakamura and Kunikatsu Nomura: Applicability of Dischinger-Type to Ultra Long-Span Bridges, Rept. of the IABSE Symposium on Long-Span and High-Rise Structures in Kobe, Japan, IABSE Reports, Vol.79, International Association for Bridge and Structural Engineering (IABSE), pp.137-142, 1998.
- (7) Masami Iwamoto, Ken-ichi Maeda, Yasuyuki Morizono, Masatsugu Nagai and Yozo Fijino: Coupled Flutter Behavior of Ultra Long-Span Suspension Bridges, Rept. of the IABSE Symposium on Long-Span and High-Rise Structures in Kobe, Japan, International Association for Bridge and Structural Engineering (IABSE), pp.211-216, 1998.
- (8) Ken-ichi Maeda, Hitoshi Nakamura, Makoto Konno, Yu Moroyama and Makoto Abe: Structural Countermeasures for Design of a Very Long-Span Cable-Stayed Bridge under Wind Load, Rept. of the IABSE Conference on Cable-Stayed Bridges - Past, Present and Future in Malmo, Sweden, IABSE Reports, Vol.82, International Association for Bridge and Structural Engineering (IABSE), pp.76-77, 1999.
- (9) Ken-ichi Maeda, Hitoshi Nakamura, Makoto Konno, Yu Moroyama and Makoto Abe: Structural Countermeasures for Design of a Very Long-Span Cable-Stayed Bridge under Wind Load, Proc. of the IABSE Conference on Cable-Stayed Bridges - Past, Present and Future in Malmo, Sweden, International Association

- for Bridge and Structural Engineering (IABSE), CD-ROM pp.225-234, 1999.
- (10) Ken-ichi Maeda and Hitoshi Nakamura: Effects of Out-of-plane Elastic Support Condition of Main Girder on the Economical Efficiency in a Very Long-Span Cable-Stayed Bridge, Proc. of the 5th Korea-Japan Joint Seminar on Steel Bridges (JSSB-KJ5) in Pusan, Korea, Korean Society of Steel Construction (KSSC), pp.585-592, 1999.
 - (11) Ken-ichi Maeda, Yasuyuki Morizono, Hitoshi Nakamura, Tatsuya Eguchi and Yozo Fujino: Applicability of CFRP Cables to Ultra Long-Span Suspension Bridges, IABSE Report, Vol.84, Conference Report on Cable-Supported Bridges -Challenging Technical Limits, pp.224-225, 2001.
 - (12) Ken-ichi Maeda, Yasuyuki Morizono, Hitoshi Nakamura, Tatsuya Eguchi and Yozo Fujino: Applicability of CFRP Cables to Ultra Long-Span Suspension Bridges, Proceedings (CD-ROM) of IABSE Conference on Cable-Supported Bridges -Challenging Technical Limits, pp.001-008, 2001.
 - (13) Hitoshi Nakamura and Ken-ichi Maeda: Application of Extended Equivalent Initial Imperfection Method to Long-Span Cable-Stayed Bridges, Proceedings of the 6th Japan-Korea Joint Seminar on Steel Bridges (JSSB-JK6), pp.67-74, 2001.

3) 学術論文(審査無, 解説・論説を含む)

A. 大学紀要, 等

B. 技術誌, 年鑑, 等

- (1) 前田研一: 土木工事・橋, ブリタニカ国際年鑑 2002, ブリタニカジャパン, pp.352-353, 2002.

C. 講演資料, テキスト, 等

- (2) 前田研一: 橋とハイテクノロジー, 都民カレッジ「ハイテクはここまで進んだ②」テキスト, 第1回, 第5回, 第6回, pp.1-64, pp.102-141, 1993.
- (3) 前田研一: 近代橋梁の「橋」空間をたずねて, 平成9年度「文化財めぐり」テキスト, 東京都中央区教育委員会, pp.1-12, 1997.
- (4) 前田研一: 近代土木遺産としての東京の橋, 都民カレッジ「橋の科学②」テキスト, 第1回~第3回, pp.1-58, 1997.
- (5) 中村一史: 近代土木遺産としての東京の橋, 都民カレッジ「橋の科学②」テキスト, 第4回, pp.59-66, 1997.
- (6) 前田研一: 近世・近代の橋構造, 荒川フォーラム3「川・人・橋」 - 荒川の橋を考える - その2講演集, あらかわ学会歴史民俗委員会, pp.10-26, 1999.
- (7) 前田研一: ISO/CEN 規格体制への対応, 鋼構造及び合成構造設計・施工標準の世界の動向と今後の展望に関するシンポジウム講演資料集, 土木学会鋼構造委員会, pp.13-23, 1999.
- (8) 前田研一: ユーロコードと ISO 規格 - 鋼構造分野, 第2回「ISO への対応」に関するシンポジウム - ISO と CEN - 講演資料集, ISO 対応特別委員会 (委託: 建設省, 運輸省, 農林水産省), 土木学会技術推進機構, pp.65-83, 1999.
- (9) 前田研一: ISO 規格と欧州規格 - 我が国への影響 (鋼構造分野), 「ISO への対応」に関する第4回シンポジウム - 設計標準はどこへ行く - [国際標準の最新動向] 講演資料集, ISO 対応特別委員会 (委託: 国土交通省, 農林水産省), 土木学会技術推進機構, pp.1-21, 2001.
- (10) 前田研一: 長大, 超長大吊橋への CFRP の適用と極超長大吊橋の可能性, 先端新材料によるミッションインポッシブルの達成, 土木学会平成13年度全国大会研究討論会・研-10資料, pp.6-7, 2001.

D. 学会情報誌, 等

- (11) 前田研一: ISO/CEN 規格情報・構造の設計 - 鋼構造 -, ISO 対応速報, 創刊号, 土木学会 (委託: 建設省, 運輸省, 農水省), pp.29-32, 1999.
- (12) 前田研一: ISO/CEN 規格情報・製作と架設 - 鋼構造 -, ISO 対応速報, 創刊号, 土木学会 (委託: 建設省, 運輸省, 農水省), pp.50, 1999.
- (13) 前田研一・池田 茂: ISO/CEN 規格情報・「構造の設計」に関する TC 審議情報 - 鋼構造 -, ISO 対

- 応速報，第2号，土木学会（委託：建設省，運輸省，農水省），pp.73-86，1999.
- (14) 前田研一：ISO/CEN 規格情報・「製作と架設」に関する TC 審議情報－鋼構造－，ISO 対応速報，第2号，土木学会（委託：建設省，運輸省，農水省），pp.107-108，1999.
- (15) 前田研一：ISO/CEN 規格情報・「構造の設計」に関する TC 審議情報と対応状況－鋼構造－，ISO 対応速報，第3号，土木学会（委託：建設省，運輸省，農水省），pp.65-66，2000.
- (16) 前田研一・荒木映世：ISO/CEN 規格情報・「製作と架設」に関する TC 審議情報と対応状況－鋼構造－，ISO 対応速報，第3号，土木学会（委託：建設省，運輸省，農水省），pp.85-102，2000.
- (17) 前田研一：ISO/CEN 規格情報・「構造の設計」に関する TC 審議情報と対応状況－鋼構造－，土木 ISO ジャーナル，Vol.4，土木学会技術推進機構，pp.78-81，2000.
- (18) 前田研一：ISO/CEN 規格情報・「製作と架設」に関する TC 審議情報と対応状況－鋼構造－，土木 ISO ジャーナル，Vol.4，土木学会技術推進機構，pp.114-116，2000.
- (19) 今野卓熙・前田研一：ISO/CEN 規格情報・「構造の設計」に関する TC 審議情報と対応状況－鋼構造－，土木 ISO ジャーナル，Vol.5，土木学会技術推進機構，pp.77-82，2001.
- (20) 今野卓熙・前田研一：ISO/CEN 規格情報・「製作と架設」に関する TC 審議情報と対応状況－鋼構造－，土木 ISO ジャーナル，Vol.5，土木学会技術推進機構，pp.115-116，2001.
- (21) 前田研一：ISO/CEN 規格情報・「構造の設計」に関する TC 審議情報と対応状況－鋼構造－，土木 ISO ジャーナル，土木学会技術推進機構，Vol.6，pp.55-60，2001.
- (22) 今野卓熙，前田研一：ISO/CEN 規格情報・「構造の設計」に関する TC 審議情報と対応状況－鋼構造－，土木 ISO ジャーナル，土木学会技術推進機構，Vol.7，pp.71-74，2002.

4) 外部研究費導入状況

- (1) 受託研究費(研究代表者；前田研一)：土木構造学に関する研究「解析システム」，川田テクノシステム(株)，1992，1993年度.
- (2) 文部省科学研究費補助金(試験研究 B(1)，研究代表者；伊藤 学，分担者；山口宏樹，藤野陽三，長井正嗣，前田研一，奥井義昭，沈 赤)：斜張橋の長支間化に伴う不安定現象の解明と構造的対策の開発研究，1993，1994年度.
- (3) 教育研究奨励寄附金(研究代表者；前田研一)：土木構造学に関する研究「吊形式橋梁」，鋼材倶楽部，1997，1998年度.
- (4) 教育研究奨励寄附金(研究代表者；中村一史)：土木構造学に関する研究「吊形式橋梁」，鋼材倶楽部，1998年度.
- (5) 教育研究奨励寄附金(研究代表者；前田研一)：土木構造学に関する研究「国際規格」，鋼材倶楽部，2000，2001年度.
- (6) 教育研究奨励寄附金(研究代表者；前田研一)：土木構造学に関する研究「国際規格」，日本鉄鋼連盟，2001，2002年度.
- (7) 公益信託「土木学会学術交流基金」：国際会議派遣助成(派遣者；中村一史)，土木学会，2002年度.
- (8) 総長特別研究費・若手奨励究(研究代表者；中村一史)，東京都立大学，2002年度.

5. 社会貢献

1) 著書

- (1) 「橋梁振動の計測と解析」(共著), 橋梁振動研究会編, 技報堂出版, 1993年10月.
- (2) 「鋼構造物の終局強度と設計」(分担執筆), 鋼構造シリーズ6, 土木学会, 1994年7月.
- (3) 「複合構造橋梁」(共著), 技報堂出版, 1994年9月.
- (4) 「よくわかる構造振動学入門」(編集協力), 工学出版, 1995年4月.
- (5) 「構造工学における計算力学の基礎と応用」(分担執筆), 構造工学シリーズ7, 土木学会, 1996年12月.
- (6) 「鋼構造物設計指針 PART A 一般構造物 平成9年版」(分担執筆), 鋼構造シリーズ9, 土木学会, 1997年7月.
- (7) 「中央区の橋と橋詰広場 -中央区近代橋梁調査-」(分担執筆), 東京都中央区教育委員会編, 中央区有償刊行物, 1998年3月.
- (8) 「これからの歩道橋 -付・人にやさしい歩道橋計画設計指針-」(分担執筆), 日本鋼構造協会編, 技報堂出版, 1998年5月.
- (9) 「新版・土木設計便覧」(分担執筆), 丸善, 1998年8月.
- (10) 「鋼橋の未来 -21世紀への挑戦-」(共著), 技報堂出版, 1998年10月.
- (11) 「ケーブル・スペース構造の基礎と応用」(分担執筆), 鋼構造シリーズ11, 土木学会, 1999年10月.
- (12) “Design Code for Steel Structures - Part A : Structures in General”(Revised Edit.), JSCE, Oct. 1999.
- (13) 「コンクリート構造物のデザイン」(分担執筆), コンクリート技術シリーズ35, 土木学会, 2000年5月.
- (14) 「橋梁振動モニタリングのガイドライン」(分担執筆), 構造工学シリーズ10, 土木学会, 2000年11月.
- (15) 「韓国語版・鋼橋の未来 -21世紀への挑戦-」(原書共著), 建設図書(原出版社:技報堂出版), 2001年3月.
- (16) 「都市の技術」(共著), 東京都立大学土木工学教室編, 技報堂出版, 2001年5月.
- (17) 「土木技術と国際標準」(分担執筆), 土木学会技術推進機構, 2001年12月.

2) 講演, 講習会, 都民カレッジ

- (1) 橋梁振動研究会主催「橋梁振動の計測と解析」講習会 (於：東京 1993年10月)
題目：“振動の制御と応用” “数値解析事例”
- (2) 都民カレッジ「ハイテクはここまで進んだ②」 (於：東京 1993年10月, 11月)
題目：“橋とハイテクノロジー” (第1回, 第5回, 第6回)
- (3) 土木学会主催「鋼構造物の終局強度と設計」講習会 (於：東京, 大阪 1994年8月, 9月)
題目：“解析法の実用化における問題点”
- (4) 土木学会・橋梁交通振動に関するコロキウム基調講演 (於：東京 1995年11月)
題目：“限界状態設計法における橋梁交通振動の解析と計測”
- (5) 鋼橋技術研究会・研究成果発表会講演 (於：東京 1996年11月)
題目：“MONO-DUO形式超長大吊橋の耐風安定性”
- (6) 土木学会主催「計算力学の実務への適用とその評価」講習会 (於：東京, 大阪 1996年12月)
題目：“骨組構造”
- (7) 東京都中央区教育委員会主催「文化財めぐり」 (於：東京 1997年10月)
題目：“近代橋梁の「橋」空間をたずねて”
- (8) 都民カレッジ「橋の科学②」 (於：東京 1997年11月, 12月)
題目：“近代土木遺産としての東京の橋”
- (9) 日本鋼構造協会主催「これからの歩道橋」講習会 (於：東京, 大阪 1998年6月,
題目：“人にやさしい歩道橋計画設計指針・計画指針編” 於：札幌 1998年11月)
- (10) あらかわ学会・荒川フォーラム「川・人・橋 -荒川の橋を考える-」
題目：“近世・近代の橋構造” (於：東京 1999年4月)
- (11) 土木学会主催・鋼構造設計施工基準の世界における動向と今後の展望に関するシンポジウム講演
題目：“ISO/CEN規格体制への対応” (於：東京 1999年10月)
- (12) 土木学会主催・ISOへの対応に関するシンポジウム「ISOとCEN」講演及びパネルディスカッション
題目：“ユーロコードとISO規格 -鋼構造分野-” (於：東京 1999年11月)
- (13) 建設省土木研究所講演会 (材料施工部化学研究室担当) (於：つくば 2000年3月)
題目：“新素材ケーブルを用いた長大・超長大吊橋の開発について”
- (14) 鋼材倶楽部土木専門委員会講演 (於：東京 2000年5月)
題目：“ISOとユーロコードの現状について”
- (15) 東京都立大学・大学説明会 学科別オープンクラス (於：東京 2000年8月)
題目：“橋の長大化, 超長大化”
- (16) 土木学会主催「橋梁振動モニタリングのガイドライン」講習会 (於：東京 2000年11月)
題目：“モニタリングの実施目的”
- (17) 土木学会主催・ISOへの対応に関するシンポジウム「国際標準の最新動向」講演
題目：“ISO規格と欧州規格-我が国への影響(鋼構造分野)” (於：東京 2001年9月)

- (18) 土木学会全国大会研究討論会「先端新材料によるミッションインポッシブルの達成」話題提供
題目：“長大，超長大吊橋へのCFRPの適用と極超長大吊橋の可能性”（於：熊本 2001年10月）
- (19) 土木学会・橋梁振動コロキウム'01 チュートリアル講演（於：金沢 2001年10月）
題目：“鋼橋の疲労，および，維持管理に関する技術基準の国際規格化への対応”
- (20) 土木学会主催「土木ISO定期セミナー」（於：東京 2001年12月）
題目：“地盤・鋼・コンクリート分野のISOへの取り組み”

3) 審議会，委員会活動

A. 審議会，等

公的機関	委員会・研究会等名	役職名
文部科学省	教科用図書検定調査審議会 ・ 第九部会 ・ 第九部会工業小委員会	委員 委員 委員
独立行政法人 土木研究所	土木研究所研究評価委員会 ・ 研究評価第二分科会	委員
土木研究センター	繊維強化プラスチックの土木構造材料への適用に関する共同研究評価委員会 [委託：建設省]	委員
沿岸開発 技術センター	橋梁海中基礎技術開発委員会 [委託：運輸省]	委員
日本技術士会	技術士試験委員会 [委託：科学技術庁]	委員
東京都中央区 教育委員会	中央区文化財調査・近代橋梁調査団	副団長，調査員

B. 学会委員会，等

学会名	委員会・分科会等名	役職名
土木学会	ISO 調査検討委員会 [委託：建設，運輸，農水省]	委員
土木学会	技術推進機構 ISO 対応特別委員会 ・ 情報収集小委員会 ・ 耐震設計国際規格化検討小委員会 [委託：国土交通省，農水省]	委員兼幹事 委員及び委員長 委員
土木学会	鋼構造委員会 ・ 鋼構造物設計指針小委員会 ・ 鋼構造終局強度研究小委員会 ・ 鋼構造終局強度研究小委員会終局強度設計分科会 ・ 鋼構造施工標準等調査小委員会 ・ 歴史的鋼橋調査小委員会 ・ ロングスパン・スペース構造研究小委員会 ・ 鋼構造に関する国際規格調査小委員会 ・ ケーブル系橋梁の合理化検討小委員会	委員 委員及び委員兼幹事 委員 委員 委員及び委員長，委員兼幹事，委員 委員 委員 委員
土木学会	構造工学委員会 ・ 非線形解析小委員会 ・ 橋梁交通振動研究小委員会 ・ 計算力学とその応用に関する研究小委員会 ・ 計算機高度利用研究小委員会	委員 委員 委員兼幹事 委員，委員 委員

	<ul style="list-style-type: none"> ・構造工学論文集編集小委員会計算力学分科会 ・橋梁振動モニタリング研究小委員会 ・構造設計国際標準研究小委員会 ・構造工学論文集編集小委員会振動・振動制御分科会 ・FRP 橋梁研究小委員会 ・橋梁振動モニタリングとその標準化研究小委員会 ・立体横断施設のユニバーサルデザインに関する研究小委員会 	委員 委員 委員 委員 副委員長及び委員長, 委員 委員 副委員長
土木学会	コンクリート委員会 ・景観設計小委員会	委員
土木学会	論文集編集委員会 ・第6小委員会	委員
土木学会	関東支部平成9年度全国大会 実行委員会・特集号編集部会 ・講演部会	副部長 委員

C. 協会委員会, 等

協会名	委員会・分科会等名	役職名
日本鋼構造協会	運営委員会 ・運営幹事会 ・新中期計画策定WG	委員 委員
日本鋼構造協会	国際委員会 ・PSSC-92 組織委員会 運営委員会・総務部会 ・ISO/TC167 国内対策小委員会 ・鋼構造(鋼橋)に関する国際整合化規格作成小委員会	委員 委員 委員長
日本鋼構造協会	標準委員会 ・人に優しい立体横断施設計画小委員会	委員 副委員長
日本鋼構造協会	学術委員会 ・年次論文報告集編集小委員会 ・論文集編集小委員会	委員兼幹事 委員
日本鋼構造協会	事業委員会 ・研究発表会等小委員会	委員
鋼橋技術研究会	技術委員会 ・技術情報部会 ・リフォーム研究部会 ・施工部会	委員兼幹事, 委員兼幹事 副部長 , 委員

4) 委員会等報告書

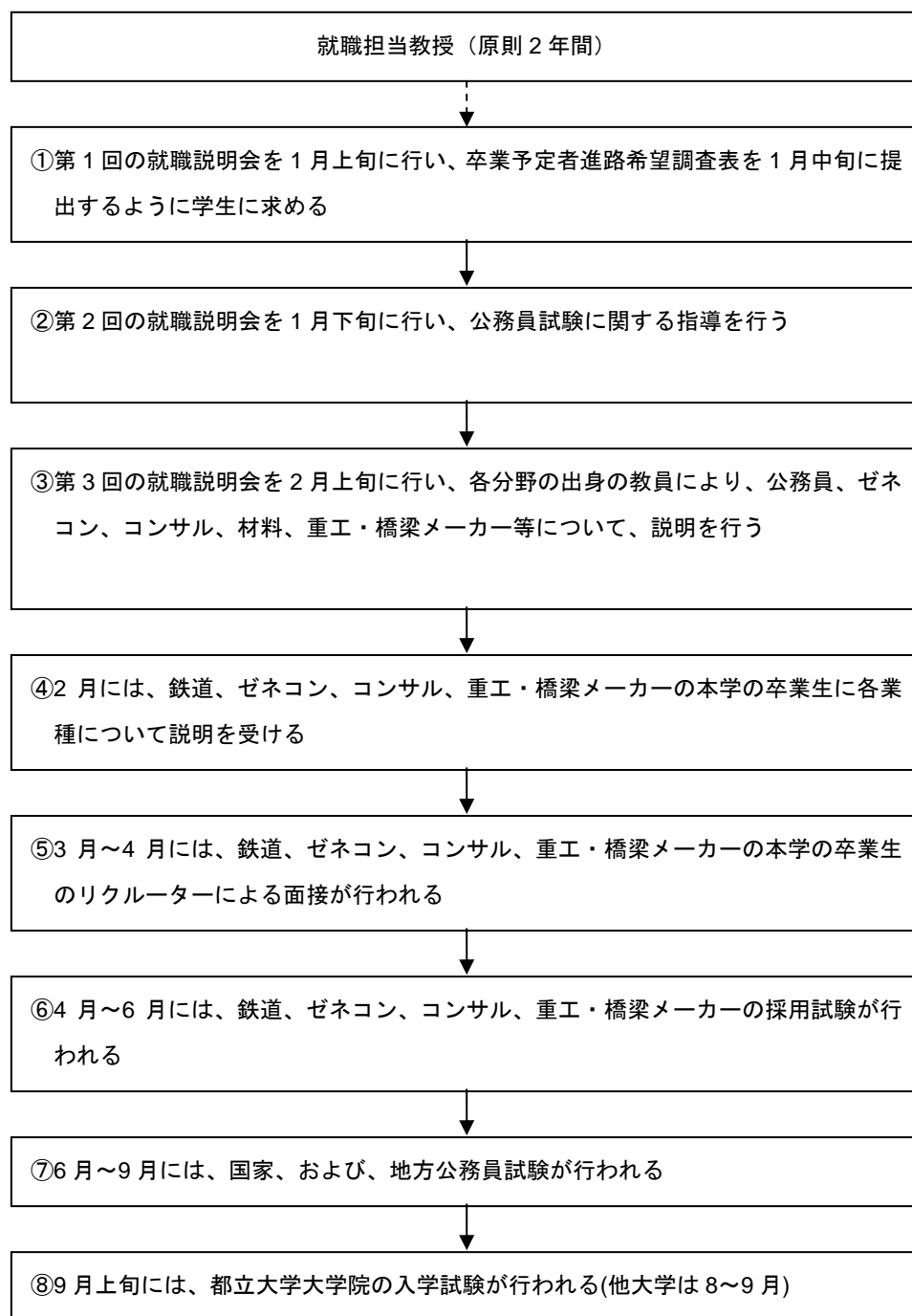
- (1) PSSC-92 組織委員会：第3回太平洋鋼構造会議(PSSC-92)事業報告書，日本鋼構造協会，1993年2月。
- (2) 橋梁交通振動研究小委員会：交通荷重による橋梁振動に関する研究の現状とその課題（橋梁交通振動研究小委員会報告書），土木学会構造工学委員会，1994年4月。
- (3) 斜張橋開発共同研究グループ：斜張橋の長支間化に伴う不安定現象の解明と構造的対策の開発研究，平成6年度科学研究費補助金・試験研究(B)(1)研究成果報告書(研究代表者 伊藤 学)，1995年3月。
- (4) 技術情報部会：オーストラリア・ニュージーランド橋梁技術視察団報告書，鋼橋技術研究会技術委員会，1995年12月。
- (5) 橋梁海中基礎構造技術開発委員会：橋梁海中基礎構造技術開発調査委託報告書，運輸省第4港湾建設局下関調査設計事務所，沿岸開発技術研究センター，1996年2月。
- (6) リフォーム研究部会：リフォーム研究部会報告書，鋼橋技術研究会技術委員会，1996年3月。
- (7) 技術情報部会：MONO-DUO 形式超長大吊橋の耐風安定性（鋼橋技術研究会研究発表会・技術情報部会概要集），鋼橋技術研究会技術委員会，1996年11月。
- (8) 歴史的鋼橋調査小委員会：歴史的鋼橋集覧 第一集 上巻・鉄道橋編，土木学会鋼構造委員会，平成8年3月付(1996年11月)
- (9) 歴史的鋼橋調査小委員会：歴史的鋼橋集覧 第一集 下巻・道路橋編，土木学会鋼構造委員会，平成8年3月付(1996年11月)
- (10) ISO 調査検討委員会：ISO 調査検討委員会報告書，土木学会（委託 建設省，運輸省，農水省），1997年3月。
- (11) 平成9年度全国大会実行委員会：土木学会平成9年度全国大会実施計画書，土木学会関東支部，1997年9月。
- (12) 橋梁海中基礎構造技術開発委員会：橋梁海中基礎構造技術開発調査委託・平成7年度および平成8年度総括報告書，運輸省第4港湾建設局下関調査設計事務所，沿岸開発技術研究センター，1997年12月。
- (13) ISO 対応特別委員会：平成9年度・ISO 対応特別委員会報告書，土木学会（委託 建設省，運輸省，農水省），1998年3月。
- (14) ISO 対応特別委員会：ISO 規格と我が国の技術基準，「ISO への対応」に関するシンポジウム資料，土木学会（委託 建設省，運輸省，農水省），1998年9月。
- (15) 計算機高度利用研究小委員会：土木工学におけるコンピュータの高度利用技術，構造工学技術シリーズ6，土木学会構造工学委員会，1998年10月。
- (16) ISO 対応特別委員会：平成10年度・ISO 対応特別委員会報告書，土木学会（委託 建設省，運輸省，農水省），1999年3月。
- (17) 土木専門委員会：MONO-DUO 形式超長大吊橋の構造特性と耐風安定化策，平成10年度土木鋼構造研究奨励事業・研究奨励研究梗概集，鋼材倶楽部，1999年4月。
- (18) 鋼構造施工標準等調査小委員会：欧州規格(EN)における鋼構造物の施工標準－対訳版，鋼構造施工標準等調査小委員会報告書（その1），土木学会鋼構造委員会，1999年5月。

- (19) 鋼構造施工標準等調査小委員会:鋼構造物の施工に関する海外基準の我が国への適用における問題点, 鋼構造施工標準等調査小委員会報告書 (その2), 土木学会鋼構造委員会, 1999年5月.
- (20) ISO対応特別委員会:平成11年度・ISO対応特別委員会報告書, 土木学会技術推進機構(委託 建設省, 運輸省, 農水省), 2000年3月.
- (21) 構造設計国際標準研究小委員会:活動成果報告書・国際標準に基づく構造物の設計法, 土木学会構造工学委員会, 2000年8月.
- (22) 共同研究評価委員会:繊維強化プラスチックの土木構造材料への適用に関する共同研究報告書(II), 建設省土木研究所, 共同研究報告書第252号, 材料施工部化学研究室, 2000年12月.
- (23) ISO対応特別委員会:平成12年度・ISO対応特別委員会報告書, 土木学会技術推進機構(委託 国土交通省, 農林水産省), 2001年3月.
- (24) 土木専門委員会:CFRP主ケーブル超長大吊橋の構造特性と経済性, および, 耐風安定性, 平成12年度土木鋼構造研究奨励事業・研究奨励研究梗概集, 鋼材倶楽部, 2001年4月.
- (25) 土木研究所研究評価委員会:平成13年度・土木研究所研究評価委員会報告書, 独立行政法人土木研究所, 土木研究所資料第3864号, 2002年3月.
- (26) 鋼構造に関する国際規格調査小委員会:技術標準の国際化に関する北米(カナダ・アメリカ)調査報告書, 土木学会鋼構造委員会, 2002年3月.
- (27) ISO対応特別委員会:平成13年度・ISO対応特別委員会報告書, 土木学会技術推進機構(委託 国土交通省, 農林水産省), 2002年3月.

6. 就職・同窓会活動

1) 構造研究室・橋梁研究室 進学・就職状況

A. 学科・専攻スケジュール



(平成15年度大学院入試より8月上旬に繰り上げ予定)

B. 構造・橋梁研究室進路指導

両研究室合同指導（3年生：1月上旬仮配属後～3月）

各研究室別指導（新4年生：4月上旬正式配属後～）

各研究室別指導（修士1年生：2月中旬～3月，修士新2年生：4月～）

C. 構造・橋梁研究室進路状況

（省略）

2) 東京都立大学 土木構造・橋梁研究会

A. 会員資格

東京都立大学卒業生または修了生で橋梁に興味がある者すべて（構造研究室，橋梁研究室の出身者に限らず，また，鋼橋，コンクリート橋の別も問わない）

B. 役員および会員リスト

会 長：成田信之（元・教授，現・土木研究センター理事長）

副会長：山寺徳昭（昭和36年卒，元・首都高速道路公団，現・㈱白石専務取締役）

幹事長：前田研一 幹事：中村一史（平成4年卒），山沢哲也（平成7年卒）

会員リスト：付録参照

C. 活動状況

第1回（平成6年度，1994年11月8日（火））

見学会 13:30～17:15 JR 関内駅集合

鶴見つばさ橋および多摩川トンネルの建設現場

研究会 17:15～18:15 於 首都高速道路公団南青山分室

田中賞受賞記念講演：

「吊形式橋梁の塔の座屈設計に関する一考察」 東京都立大学 野上邦栄

懇親会 18:15～ 於 首都高速道路公団南青山分室

第2回（平成7年度，1995年12月5日（火））

見学会 13:00～16:30 JR 川崎駅集合後，マイクロバス，船にて移動

東京湾横断道路建設現場

研究会 16:35～17:35 於 首都高速道路公団浮島換気所内会議室

話題提供：「ブリッジマネージメントーPIARC活動の紹介ー」

東京都立大学 成田信之

懇親会 18:30～ 於 NKK 小野町クラブ

第3回（平成8年度，1996年11月6日（水））

見学会 14:15～17:00 JR 君津駅集合後，バスで見学場所へ移動

新日本製鐵㈱君津製鉄所および総合技術センター

研究会 17:00～18:00 於 総合技術センター会議室

話題提供：

「MONO-DUO 形式超長大吊橋に関する研究」 東京都立大学 前田研一

懇親会 18:00～19:30 於 富津クラブ（総合技術センター内）

第4回（平成9年度，1997年10月28日（火））

研究会 17:00～18:00 於 モノリス29（東京都福利厚生施設）

話題提供：

「長大斜張橋の構造的不安定現象に関する考察」 東京都立大学 中村一史

田中賞受賞記念講演：

「絶縁性能を付与した摩擦接合継手の静的強度および疲労強度試験」

東京都立大学 長嶋文雄

成田教授退官記念事業と今後の研究会について

懇親会 17:30～19:30 於 モノリス29（前掲）

成田信之先生退職記念事業（平成10年度，1998年10月23日（金） 於 ホテルフロラシオン青山）

記念講演会及びパネルディスカッション『鋼橋の未来』

話題提供者（技報堂出版「鋼橋の未来」共著者）

記念祝賀会

第6回（平成11年度，1999年10月26日（火））

見学会 12:40～16:00 JR大月駅集合後，マイクロバスにて移動

中央リニア山梨実験線，小形山橋梁および県立見学センター

懇親会 18:30～ 於 モノリス29（前掲）

第7回（平成12年度，2000年10月17日（火））

見学会 13:00～15:30 JR川崎駅集合後，マイクロバスにて移動

首都高速道路公団川崎縦貫線建設現場

研究会 17:00～18:00 於 シーフォーレ（NKK福利厚生施設）

話題提供：「複合構造橋梁における内外の新技術」 住友建設(株) 近藤真一

懇親会 18:00～20:00 於 シーフォーレ（前掲）

第8回（平成13年度，2001年10月30日（火））

研究会 15:00～18:00 於 神楽坂エミール（東京都福利厚生施設）

講演テーマ『土木分野のグローバルスタンダードへの対応』

「道路橋示方書改訂に関する最近の動向」 榑長大 秋元泰輔

「ISOへの対応の必要性と我が国の動向」 東京都立大学 前田研一

「海外設計標準の最新動向」 東京都立大学 野上邦栄

懇親会 18:00～20:30 於 神楽坂エミール（前掲）

3) 東京都立大学 *STiff21* (S**Structure** **I**novation **F**reshmen's **F**orum for **21**st century)

A. 会員資格

東京都立大学土木構造・橋梁研究会の会員のうち、平成元年度以降在学していた若手の者すべて

B. 役員および会員リスト

会 長：中村一史(平成4年卒)

副会長：山沢哲也(平成7年卒)

幹 事：鈴木克弥(平成3年卒)，池田 学(平成5年卒)，山内貴宏(平成7年卒)，紺野 誠(平成9年卒)

顧 問：前田研一，野上邦栄

会員リスト：付録参照

[リストのうち平成元年度(1989年3月)以降に卒業または修了した者]

C. 活動状況

第1回(平成11年度，1999年6月19日(土))

研究会 14:00~17:00 於 東京都立大学工学部 土木工学科会議室

趣旨説明

中村一史

話題提供：

「大学における最近の研究の紹介」

中村一史・山沢哲也

懇親会 17:00~20:00 於 同上

第2回(平成11年度，1999年8月21日(土))

研究会 14:00~17:00 於 東京都立大学工学部 土木工学科会議室

話題提供：

1. 「木曾川橋(エクストラロード橋)の概要報告」

NKK 田平秀和(平成9年院卒)

2. 「中央リニア山梨実験線について」

鉄道総合技術研究所 池田 学(平成7年院卒)

懇親会 17:00~20:00 於 同上

第3回(平成11年度，2000年1月22日(土))

研究会 14:00~17:00 於 東京都立大学工学部 土木工学科会議室

話題提供：

1. ケーブルの材料特性を考慮した長大斜張橋の弾塑性有限変位解析

師山 裕(修士課程2年)

2. 超長大吊橋の終局強度に着目した安全率の合理化に関する研究

齋藤一則(修士課程2年)

3. 「鉄道鋼構造物の耐震設計について」

鉄道総合技術研究所 池田 学(平成7年院卒)

懇親会 17:00~20:00 於 同上

第4回（平成12年度，2000年4月15日（土））

研究会 14:00～17:00 於 東京都立大学工学部 土木工学科会議室

話題提供：

1. 「鋼橋」業界の流れについて

横河ブリッジ 鈴木克弥（平成3年学部卒）

2. 土木構造学講座の研究報告 -2000年度年講資料をもとに-

中村一史・山沢哲也

懇親会 17:00～20:00 於 同上

第5回（平成12年度，2000年7月15日（土））

研究会 14:00～17:00 於 東京都立大学工学部 土木工学科会議室

話題提供：

1. 首都高速道路公団の業務紹介

首都高速道路公団 山内貴宏（平成9年院卒）

2. 工事管理室の役割と業務について

東日本旅客鉄道(株) 齋藤 聡（平成11年院卒）

懇親会 17:00～20:00 於 同上

第6回（平成12年度，2001年1月27日（土））

研究会 14:00～17:00 於 東京都立大学工学部 土木工学科会議室

話題提供：

1. 超長大斜張吊橋の座屈安定性に関する研究

五丁康成（修士課程2年）

2. 超長大吊橋の終局強度に着目した合理的な安全率のバランス化に関する研究

仲西竜伸（修士課程2年）

懇親会 17:00～20:00 於 同上

第7回（平成13年度，2001年5月12日（土））

研究会 14:00～17:00 於 東京都立大学工学部 土木工学科会議室

話題提供：

1. 鋼橋の業界について

東京鐵骨橋梁 小林岳彦（平成2年院卒）

2. 鉄道構造物における鋼・複合構造物の最近の動向

日本鉄道建設公団 池田 学（平成7年院卒）

懇親会 17:00～20:00 於 同上

第8回（平成13年度，2001年7月28日（土））

研究会 14:00～17:00 於 東京都立大学工学部 土木工学科会議室

話題提供：

1. 建設コンサルタント業務紹介，および，性能照査型設計について

パシフィックコンサルタンツ(株) 岩城達思（平成2年学卒）

2. トンネルについて

(株)熊谷組 伊藤政彦（平成4年学卒）

3. 鋼鉄道橋の騒音対策について

日本鉄道建設公団 池田 学 (平成7年院卒)

懇親会 17:00~20:00 於 同上

第9回 (平成13年度, 2001年1月26日 (土))

研究会 14:00~17:00 於 東京都立大学工学部 土木工学科会議室

話題提供:

1. 開発した港湾構造物について

新日本製鐵(株) 葛 拓造 (平成3年院卒)

2. シールドトンネルについて

(株)熊谷組 伊藤政彦 (平成4年学卒)

3. 国道20号新宿こ線橋架替工事に伴う新宿駅改修計画について

東日本旅客鉄道(株) 齋藤 聡 (平成11年院卒)

懇親会 17:00~20:00 於 同上

第10回 (平成14年度, 2001年5月11日 (土))

研究会 14:00~17:00 於 東京都立大学工学部 土木工学科会議室

話題提供:

1. コンクリート床板の劣化予測手法の検討について

首都高速道路公団 井野勝彦 (平成5年院卒)

2. 陣ヶ下高架橋の計画・設計・施工について—平成13年度田中賞受賞作品—

パシフィックコンサルタンツ(株) 土田隆司 (平成4年学卒)

3. 手延送出し工法の紹介

勝村真由 (修士課程1年)

懇親会 17:00~20:00 於 同上